



香港便り その39

最

近香港ではGBAという言葉葉をよく目にする。これはワー

カホリックばかりの香港でストレス軽減に必須なサブリーGBAとは違う。

GBAはグレートベイエリアの頭文字の略称で、中国南部の主要都市（広州、深圳、珠海、佛山、惠州、東莞、中山、江門、肇慶）と2つの特別行政区である香港とマカオを合わせて2019年

に新設された新興経済特区だ。域内の総人口は8700万人に上り、サンフランシスコや東京を軽く追い抜くような沿岸経済特区になりうるポテンシャルを秘めているといわれる。今まで複雑な手続きを経る必要があった香港―中国本土間の往来もかなり簡素化され、11の都市間の人や物の動きが潤滑かつ活発化している。香港700万人のマーケットから一気に8700万人にアクセスできるようになり、ビジネスチャンスも拡大した。香港バレエ団もバレエアカデミーを新設したのだが、教育シラバスを確立しそれを香港バレエメソッドとしてGBAに進出していいこうという機運もある。香港大学に至ってはすでに深圳に新たなキャンパスを設立し、本土のテック企業などと連携している。

香港は100年にわたる自由貿易港としての経験、金融サービスの実績から第三次産業が発展し、他の中国の都市に対して経済的特性を保ってきた。

香港はそれらのノウハウを他の中国の都市に伝えリードしていく役割をGBAの中で、担っていくのだが、香港の先行きに不透明感を覚えるものも少なくない。香港にはトップタレントパススキームというビザの制度がある。これは世界の大学ランキングで100位以内に入る大学と中国の名門大学を卒業した学生が優先的にビザを得ることができるといわれるが、アプリケーション内の90%は中国本土からの人材とあって、事実上本土の人材を香港に呼び込むための制度と化している。こうした中、他の都市が香港式サービス産業を習得した時、リーダーとしての香港はいらなくなり、相対的に都市としての優位性を失うのではないかという不安を感じているのだ。

香港バレエもGBA内の他のバレエ団と交流し、作品の共有をすることになれば、香港バレエの独自性を失い、グローバルマーケットの中の香港バレエという地位からGBAの中の一つのバレエ団になってしまう可能性は否定

できない。しかしサンクトペテルブルクで生まれたワゴノワメソッドが世界中に広がってもなお、本家として別格の存在感を示すサンクトペテルブルクのマリンスキー劇場がいい例のように、スタイルさえ確立できれば香港バレエもGBAのリーダーとして圧倒的存在感を示し、GBAから世界に打って出ることができるといって秘めている。

これから日本でもGBAという言葉をよく聞くことになるはずなので、注目してほしい。

文 高野 陽年

text by Yonen Takano

Profile

2011年にロシアの名門ワゴノワバレエアカデミーを卒業し、世界的振付家ナチョ・ドゥアトの指名を受け外国人初の正団員としてロシア国立ミハイロフスキー劇場に入団。主にドゥアト作品で活躍した後、2014年6月より世界的に絶大な人気を誇るバレリーナ、ニーナ・アナニアシヴィリに引き抜かれグルジア国立トリシ・オペラ・バレエ劇場に移籍。ヨーロッパ、北米、日本を含めさまざまな劇場における公演で主役を務めた。そして2021年7月より香港バレエ団に活動の拠点を移し、さらに活躍の場を広げている。立教大学中退。

